

三田メディアセンターウェブサイトおよび広報誌のリニューアルについて

たにふじゆみこ
谷藤優美子

(日吉メディアセンター (2013年5月まで三田メディアセンター))

三田メディアセンター(以下、三田)では、2012年度に図書館ウェブサイトと広報誌を相次いでリニューアルした。これらの経緯についてまとめて報告する。

1 図書館ウェブサイト

2006年以來6年ぶりとなったリニューアルの特徴を、3つの点から説明する。

(1) デザインとコンテンツ

旧ウェブサイトは、三田の主なユーザである上級学年の学生が文献検索しやすいことに重点を置いたデザインであったが、「下層のコンテンツが探しにくい」「図書館について知りたいという塾員や学外者にも使いやすく」という意見が寄せられていた。そこでリニューアルにあたっては、利用の多い文献検索やオンラインリクエストを中心に配置しつつも、利用者の身分ごとにコンテンツを整理し、トップページに開館カレンダーを表示したほか、貴重書展示など三田らしいコンテンツを紹介する大きなバナーを配するなどの工夫をした。また、新コンテンツとして、他キャンパスではすでに実施していた新着図書情報の配信を三田でも開始した。



(2) スマートフォン対応

これまで携帯電話向けに開館時間や休館日を掲載した簡易なサイトは設けていたが、スマートフォン(以下スマホ)の普及を踏まえ、これに対応する

必要性を感じていたところ、画面の大きさに合わせて自動的に見やすいレイアウトでWebを表示させることができる「レスポンスWeb」という技術があることがわかり、採用することにした。これによりスマホやタブレット端末などでも、見やすく表示させることが可能となった。スマホで表示した場合は、パソコン表示の場合とはレイアウトを変えてKOSMOS検索窓の次に開館カレンダーを表示させるほか、KOSMOSの検索結果をスマホ版KOSMOSで表示させるような工夫をしている。



ただし画面サイズやブラウザの種類、文字サイズ設定によっては、多少デザインが崩れる場合がある。複雑なテーブルは使用を避けるなど、小さい画面での見え方に常に注意を払う必要がある。

(3) コンテンツ管理システム

旧ウェブサイトの管理にはオープンソースのCMS「Plone」を使用していた。今回もPloneを採用するつもりでいたが、Web制作の流行の推移のせい、現在はこれを扱える業者がないことがわかり、Plone継続は断念せざるをえなかった。

代替システムを探したところ、塾内の他部署では

「WebRelease2」というCMSを使用しており、メディアセンターでもライセンス料等の追加費用をかけずに利用できることや、ITC本部が管理しているためシステム担当の業務負荷も軽減できることがわかり、採用を決めた。

これにより当初の想定より費用や手間を大幅に削減することができた。

一方、従来と比べ不便になった点もある。例えばPloneではPDFや画像などを複数ページからリンクさせることができるが、WebRelease2では同じファイルや画像でも、それぞれのページでアップロードする必要があり、一元管理できないといったことがあげられる。

2 広報誌

(1) リニューアルの契機

前身の『三田メディアセンターニュース』は1996年以来、年8回ほど発行してきたニュースレターである。開館カレンダーやニュース、刊行時期に合わせたサービス案内、貴重書紹介などを掲載していた。

しかし開館カレンダーは別途ミニサイズのを配布しているし、そのほかの内容も図書館ウェブサイトとの重複が指摘されてきた。

そこで、その役割や位置づけを見直し、もっと図書館のことを知ってもらうための、読み物を中心とした冊子を作ろうという方針で、2013年度の春に向けて刷新することが決まった。

(2) 体裁とコンテンツ

他大学のニュースレターや図書館報を参考にしながら、ぱっと目を惹き手に取ってもらえるよう、オールカラーで写真を豊富に用いる一方、予算面や原稿執筆の負担軽減から、全8ページで春と秋の年2回発行することが決まった。

内容は、1.特集（春は新3年生向けに図書館やオリエンテーションの案内、秋はその都度検討）、2.知って良かったツール&サービス、3.コレクションの広場（個人文庫等の紹介）、4.図書館の舞台ウラ（利用者からは見えにくい図書館業務などの説明）、5.貴重書紹介、6.スタッフレポート（出張や研修の記録を読み物的に）、7.主な出来事（過去半年間の報告）である。ちなみに初号の「図書館の舞台ウラ」では蔵書点検を取り上げ、作業内容や苦労話を掲載した。2月の閉館期間中は図書館員も休んでいると

思っている学生がいるらしい（！）ので、この記事を読んで実際のところを知ってもらえたらと思う。

(3) タイトル

内容以上に難儀したのが、タイトル決めである。図書館といえば、八角塔やステンドグラス、大時計など旧館に由来するものを思い浮かべるが、ちょうど開館100年の記念行事を終えた今、次の100年に向けて、新館の中にモチーフを探すことにした。

様々な名前の候補や意見が出て、何度も検討を重ねた結果決まったのが、「知識の花弁」である。新館入口に立つ飯田善國作の彫刻の名はまさに図書館のシンボルで、タイトルにふさわしいと支持する声が多かった。「気軽に読んでもらう冊子にしては、名前が格調高すぎるのでは」という懸念もあったが、「三田メディアセンターだより」の副題をつけることで、わかりやすく、印象をやわらげることにした。なお、飯田氏のご遺族が作品名の使用をご快諾くださったことも書き添えておきたい。

『知識の花弁』第1号は2013年4月中旬に完成した。従来どおり館内や研究室棟に置いたり教員へはメールボックスに直接配布するほか、文献探索ツアー等に参加した学生にも配ることにした。授業で学生に配りたいと申し出てくださった教員や、この冊子を見て文献探索ツアーを申し込んでくださった教員もいて、在庫のはけ具合もまずまずである。



年2回発行になったことで企画や執筆に時間的余裕ができたことから、これからも図書館に興味を持ってもらえるような紙面を作っていきたい。

3 おわりに

ウェブサイトも『知識の花弁』もリニューアルから一段落したが、広報媒体としてのウェブと冊子体というそれぞれの特徴を生かしながら、より効果的に情報発信をしていけるよう、努めていきたい。

参考

- ・浅尾千夏子, 村田優美子. Web サイトのコンテンツ管理事例報告. MediaNet. 2006, no. 13, p. 44-45.
- ・知識の花弁 三田メディアセンターだより. 慶應義塾図書館 ウェブサイト <http://www.mita.lib.keio.ac.jp/guide/publication/kohoshi.html>